

ワークショップ

「ニューメディアと図書館員」

1. はじめに

“ニューメディアと図書館員”というテーマのもとワークショップが開催された。参加者は12名。12名中8名の所属する図書室で、すでにインターネットにアクセスできる環境が整備されていた。また現在、準備中である機関が2機関あった。論議された主な内容は次の5点である。

- ・インターネットを利用してどんなサービスをおこなっているか。
- ・ニューメディア各種媒体の使い分け
- ・ニューメディアの導入で図書館はどう変化していくか
- ・図書館員が身につけるべき技術は何か
- ・病院図書室の将来像、役割

2. インターネットを利用したサービス

(1) 即時性のある情報の提供

即時性のある情報が必要な場合は、大きな役割を果たす。例えば、O-157の最新情報を入手して医局や関係部署に情報を提供した機関もあった。

(2) 事項調査の拡大—インターネットはひとつのツール

図書館でインターネットができることが利用者の中に浸透してくると、「インターネットで調べてほしい」というレファレンスが増えてきているという報告があった。例えば、“国立がんセンターが告知ガイドラインをインターネット上で公開しているらしい。入手

できないだろうか？”“看護協会が看護に関する情報を提供している。当院でもアクセスできるのか”など。

これまでの所蔵している資料を対象とした事項調査に加えて、インターネットという情報源からの事項調査も可能とすることができ、うまく活用することによって事項調査の幅を広げることができる。

(3) エンドユーザーの利用促進

利用者が直接インターネットを利用して必要な情報を入手・発信できるための環境を提供することが大切である。

インターネット利用のデモンストレーションを開催し利用の促進をはかったことにより、現在では利用者が直接インターネットを利用して、たとえば Free Medline などにアクセスし、必要な情報を検索し入手しているという報告もあった。

3. 各種ニューメディアの使い分け

病院図書室を取り巻く環境の変化の中で、ニューメディアの進歩はめざましいものがある。これまでのように冊子体からの情報入手だけに留まらず、必要な情報をどのメディアから入手することが最も適しているかを選択することが求められている。そのためには各種媒体の長所短所を把握して使い分けをおこなうことが必要であろう。

したがって、これからの病院図書室は常にあらゆるメディア（インターネット、CD-ROM、パソコン通信など）から、利用者が簡単に情

報にアクセスできる環境を整備していく必要がある。

4. 病院図書室はどう変化するか

病院図書室の役割は、利用者が求める情報を正確に迅速に提供することにある。このことは将来も変わることはない。ただ扱う媒体に大きな変化があり、私たちはこれらをうまく利用することが求められている。

これまでの冊子体中心の図書館学（司書課程）だけでは通用しなくなっているという意見が多かった。そのためにはニューメディアに関する知識と技術の習得が必要である。また、新たな媒体を運用していくための利用規定が必要となるであろうし、利用者が自由に利用することのできるパソコンも数台必要となるだろう。

冊子体との関係では、ニューメディアが導入することで、すぐさま冊子体の購読を中止することにはつながらないという意見が多数であった。情報へのアクセスの便や、費用の問題などの要素を考慮しなければならないからである。

情報の質という側面から考えてみると即時性のあるのはインターネットなどの電子媒体の方がすぐれているが、その情報が永遠に価値のある情報として存在することは少ない。その点、即時性には劣るが、雑誌などの冊子体は研究され選別された価値のある質の高い情報が多いといえる。

5. 身につけるべき技術とは

私たち図書館員が身につけるべき技術・知識とはいったい何なのか。これまでもそうであったように、私たちは情報と利用者を結びキーパーソンである。これまでの冊子体から得られる情報に加えて、電子情報から得られる情報も利用者に提供していくことがその役割となるだろう。

必然的に、私たちが身につけるべき技術は

情報検索に対する知識や技術であり、情報を手入手するためのエキスパートをめざす必要があるだろう。図書館員がめざすのはコンピュータの技術者ではなく、情報検索・入手のエキスパートである。車の運転にたとえるなら、車がなぜ動くのかという技術的なことよりはむしろ、よく道を知っていてどこにいけばどんな情報を得ることができるかという道先案内人的な役割ではないだろうか。

6. 病院図書室の将来像

仮に新しく病院が新設されるとして、病院図書室の設計を任されたとすれば、どんな図書室をイメージするかという質問が出た。

冊子体に関しては、多くの蔵書をもつことよりむしろ、基本的な雑誌と教科書を所蔵して、予算の多くをニューメディアにアクセスできる環境整備にあてたいという意見が多数であった。このことは、私たち自身が冊子体以外の媒体（ニューメディア）の必要性を認識しているからであろう。大切なことは、ニューメディアを取り入れていくことで、これまでのサービスを切り捨てるのではなく、サービスの拡大を視野にいれた工夫が必要なのである。

7. おわりに

ニューメディアとは何か、ニューメディアで何ができるのか、私たちが身につけなければならない技術とは何か、病院図書室の将来像についてなど、多岐に渡ったワークショップとすることができたと思う。

次回開催する時は、技術はより進歩しているだろうし、利用している図書室も増え実践の蓄積もあり、より深い議論が期待できるのではないだろうか。

（文責：前田元也）